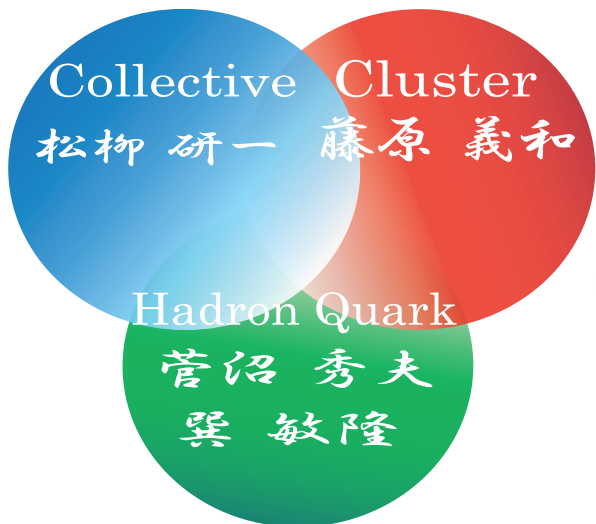


# 原子核理論研究室

原子核に関する理論的研究を主として多体問題的観点に立って行なう。

扱う現象は多岐にわたり、原子核の集団運動の微視的ダイナミクス、高スピン状態、クラスター構造、不安定核構造、重イオン衝突の微視的ダイナミクス、量子色力学とその有効模型によるハドロン構造とハドロン間相互作用、少数多体問題、高温高密度核物質やクォーク物質、中性子星現象などとの関連、などの研究を基礎物理学研究所核理論グループの協力の下、3つのサブグループに分かれて行なっている。



## 基礎物理学研究所

国広 悌二  
延子 佳子  
慈道 大介

## HQ サブグループ Hot, Dense & Fine QCD

超高温・高密度・高エネルギーにおいて、“クォーク”と“グルーオン”が原子核から開放されるクォーク・グルーオン・プラズマ (QGP) 相が形成されると考えられています。我々 HD グループでは、このような極限状態における物質の性質・相転移に対して、量子色力学 (QCD) に基づいた理論研究を進めています。

